

「倉馬の里」年頭挨拶



藤本 将

「倉馬の里」は昨年10周年を迎えました。記念祭ではいろいろとご高配いただきおかげさまで盛会裏に終えることができました。紙上を借りお礼を申し上げる次第です。今年も引き続き里山の徳を生かした活動を里山倶楽部と連携し展開したいと思えます。

「倉馬の里」は年初から忙しい。1月は梅ジャム・梅干用の梅の剪定、道の駅出荷用ワラビ園の手入れ、春そば用の畑の耕耘、早咲きの古里桜の剪定、2月は竹の子林の手入れ、パンジー花壇の手入れ、3月、4月はお茶園の寝そべっての笹取りに忙しく5月のお茶摘みまで続く。そんな中花見を楽しむ。6月は田植え

が始まるが今年は布マルチ稲作にチャレンジしたい。

夏場は特に雑草の勢いが強く、果樹園の手入れに忙しい。

赤や黄色のカンナが5月下旬ころより咲き始め11月まで約半年來園者の目を楽しませてくれる。

ハギ・キキョウ・オバナ・ナデシコ・オミナエシ・クズ・フジバカマと秋の七草が「倉馬の里」には揃っていて自然が豊かです。

11月には園内で栽培している椎茸などできのこ汁、12月は餅つきで1年を締めくくる。食べたり、飲んだり、汗を流したりの1年です。

現在会員から「倉馬の里」にカフェが欲しいとの要望もあり、長期的には有機野菜を使った里山レストランなどを視野において検討したいと考えております。

みなさんの夢をお寄せください。

物欲から解脱して

里山を楽しもう

里山倶楽部 溝口博之



般若心経の「無」。老子の「知足の教え」。尊徳の「分度」・・・欲をかいちやいかんことが数多く教えられているが、今の世の中どうも教えに反して動いているようだ。アベノミクスも国民の社会保障過剰期待も根に欲がある。イスラム国の問題も欲から発生した格差から生まれたものだし、日中、日韓関係もお互いの欲。権力欲・金銭欲・物欲・食欲・性欲などいろいろあるが足るを知らないと際限がない。

今までの価値観から早く脱却し

ないと人類の未来は暗いが、循環型エネルギーを考える本「里山資本主義」が若い世代に良く売れているらしいことなどみると、少しずつ変化の兆しがあるのだろう。花の村の底に流れている尊徳の教えが広がって行くのを期待したい。

脳細胞は成長期を過ぎると毎日10万個くらいブチブチ音を立てて死んでいくらしい。

1年で³⁶⁵⁰万個、私の場合16億4千万個失った。これだけ少なくなっただからして、新しいことが覚えられないのも納得、あと4億個もなくなる。とあの世行きになる。

里山倶楽部は物欲とは無縁、倉馬の里を中心に里山を楽しむ会だ。自然に親しみながら農業や環境問題を考えていくなかで自身の健康と生きがいを作って行く。脳細胞が少なくなっても自分自身が生き生きとした人生を長く続けられることが連れ添いや家族の為に、世の中に對しても最大の貢献だと思つてい